



令和元年12月12日(木)

おおむたこども園

金丸恵美子

## 遊びと学びの発表会を終えて…

先日は、師走のお忙しい中に、「遊びと学びの発表会」にご参加くださいありがとうございました。緊張も伺えましたが、毎日遊んでいる内容なので、無理なく発表できたと思います。

演目を選ぶ時、子ども達自身の選択と決定が最優先です。しかし、なかなか決められなかったり、安易に友達の真似をしたりなどの子どももいました。そこは、担任が個人の日頃の遊びや得意なものを提案して、一緒に決めていきました。担任は、ひとりひとりの遊びをきちんと見ていないとできません。「ただ、見守っているだけの保育者は子どもの学びが見えない」と大豆生氏もおっしゃっていました。

子ども達は毎日、自分で遊びを決めています。**ただ遊んでいる子どもは誰もいません。**成功しても失敗しても、上手く出来ても、間違えても、どんな時も子どもは学んでいます。そんなひとりひとりの学びを見てとれる、教育保育を目指していきます。

## 三股、都城保幼小連絡協議会に参加しました。

この会は、小学校と保育園、認定こども園、幼稚園との連携を密にして、小学校への就学をスムーズにすることが目的です。年に数回、各町校区ごとに、小学校との交流や職員同士の意見交換も行われています。

高崎町校区のグループ討議では、**小学校側に園に来て教育保育がどのように行われているかを見て欲しい**とお願いしました。園の活動は遊びです。学校のように一斉に教えたり、指導することはしません。子どもが主体的に遊びの中の不思議や疑問、挑戦を1人あるいは、友だちと対話しながら見つけ出したり、修得したりする体験的な教育です。これは「アクティブラーニング」と言われています。**園での遊びや活動は、毎日がこの「アクティブラーニング」によって行われています。**子ども達は園でのこの学び方をそのまま学校へ持っていくでしょう。それで良いのです。その為に文科省は「スタートカリキュラム」を来春4月から取り組むよう各小学校へ求めています。

高崎町校区の先生方に**「※スタートカリキュラム」**の事を尋ねると、1年生は、入学してから、10分、15分と少しづつ椅子に座わる時間を延ばしながら45分授業に慣らしていくと言われました。もちろん園での活動と同じように、花壇散策や虫とり、ゲームなどの体験や遊びを取り入れながら授業に移行しているそうです。保護者から「45分間座っていられるか心配」の声も多いことも伝えました。いきなり45分座らせる事は無いので大丈夫との事です。

また、給食の完食の問題がSNSなどで、取り上げられていることに触れ、食べられる量はひとりひとり違う、そこは配慮されているのかも聞いてみました。配膳は、担任や6年生がしてくれるが、個人の量を尊重するとの事でした。当園では、お皿に寄そうとも全て自分でします。学校では、席に座って待てば配膳され、一斉に食べ始めます。その違いももちろん園でも話しますが、学校でも学校のやり方を丁寧に教えて下さるようお願いしました。

就学前準備として、文字が書ける、数の理解などに走りがちですが、それよりも**「早寝、早起き、朝ごはん」やトイレ(和式)の使い方、自分の事は自分でできる基本的な生活習慣を身に付けさせて欲しい**とのことでした。

**「※スタートカリキュラム」とは…**小学校に入学した子ども達が学校に慣れる為の教育課程です。これは、授業中勝手に動き回るなど小1児童の不適応状況(小1プロブレム)が、発生している問題の対策には小学校と幼稚園、保育所が連携をとる事が必要とされています。しかし、この連携の取組をしていないところが80%に及びと文科省の有識者会議が報告をまとめ、**幼児期と児童期をつなぐスタートカリキュラム**と言う考え方を小学校に導入するに至りました。注目すべきは、小学校の責任を明確にしている所です。「保育園や幼稚園で遊んでばかりで、集中力が出来ていない」など教員の中に古い見方や意識が多く、互いに理解し合い連携をとるために努力は小学校がすべきと明言しました。保育園や幼稚園の教育は遊びです。主体的で直接的な体験で子どもは、学びます。この遊びと学びをそのまま学校へ持っていくのです。小学校は、「生活科」を中心に、子ども達の集中できる範囲に合わせて授業時間を15分単位などに分割して、緩やかにスタートすることになります。